

# アプリで目撃情報募りWeb地図化

# マイマイガ発生「監視」

## 県森林研、林業の被害軽減

県森林研究所(美濃市)は、ガの一種で2013、14年に県内で大量発生した「マイマイガ」の目撃情報を収集するアプリと、寄せられた情報を地図上に落とし込み公開するウェブサイトを新たに開発し、月内にも運用をスタートさせる。これまでマイマイガの発生状況を広域で把握する手だてはなかったため、仕組みを整えた。

運用も月内にも

(古家政徳)



開発したマイマイガの発生情報を集めるアプリについて説明する片桐奈々さん＝県庁



橋脚などをひっそり覆つマイマイガや産み付けられた卵＝2013年8月、高山市清見町上小鳥

マイマイガの幼虫は、主に広葉樹の葉を餌にするた



マイマイガの成虫

め果樹やサクラの被害が問題になるほか、大量発生時には針葉樹のスギやヒノキの苗木も食べるため林業被害になることもある。幼虫の1時期には毒針毛を持ち、皮膚炎の原因になることもあるという。

自治体は注意喚起や駆除のために増加の兆候を早めに把握したいニーズを持っているため、研究所の片桐奈々主任研究員と古川邦明技術課長補佐が広く県民らから目撃情報を募ってウェブサイトで公開する仕組みを構築した。

アプリの名称は「マイマイガを見ましたか?」。発見した場所を地図上で選ぶほか、幼虫や卵塊、成虫といった発育段階、発見日や数などを入力して送信する。スマートフォンなどで撮った写真を添付することもできる。

送信された情報は、研究所と県立森林文化アカデミーのウェブサイト「ぎん森

林情報WebMAP」に新設されるページ「マイマイガ目撃マップ」上で、ほぼリアルタイムに反映される。地図上に発見される場所が表示されるほか、発育段階ごとに絞って表示させたりもできる。目撃数の増減を示すグラフなども載せる。

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期限:令和6年6月16日

この記事は岐阜新聞社の許可を得て使用しています。